

構造工学コース

数学と専門科目の関連表

平成 28 年度以降の入学者用
(2020 年 4 月版)

微分積分学 I (1年次 第1クォーター)

担当教員:源城 かほり

授業内容(項目)	構造力学 I 1年1・2Q:安武	基礎物理A 1年3・4Q:吉武	シミュレーション 工学 2年1・2Q:吉武	材料力学 2年1・2Q:松田	応用数学C 2年1・2Q:永井	応用数学A 2年3・4Q:吉武	鋼構造設計法 3年1Q:松田	構造振動学 3年1・2Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	RC構造 設計法 3年1・2Q:中原	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第1回 数列の極限												
第2回 関数の極限と連続性 (関数の極限の定義を理解し、 連続性の判定を行う)												
第3回 逆関数 (逆関数の意味を理解する)												
第4回 微分の方法, 合成関数の 微分法 (基本的な微分公式の誘導, 合 成関数の微分)	たわみと曲率 の関係	極座標系 回転座標系		曲げモーメント によるたわみ	ベクトルの微 分						曲げモーメント -曲率関係	微係数の変換
第5回 接線と微分係数 (微分係数と接線の関係, 微分 の定義および微分可能な条件, Newton法)			Newton法		空間曲線(ベク トル)の接線、 曲面の接平面	フーリエ級数 の微分			歪			
第6回 指数関数, 対数関数の 微分 (それぞれの関数について微 分)						複素フーリエ 変換						
第7回 三角関数, 逆三角関数 の微分				主応力、主せん断応力		フーリエ級数 の微分		講義全般				
第8回 平均値の定理とロピタル の定理						ロピタルの定 理						
第9回 テイラーの定理 (テイラー展開, マクローリン展 開)	せん断応力の 算定dM		Newton法	対数ひずみ 物体力が働く 棒の伸び せん断応力算 定dM 3次元応力状 態				連続体の振動	釣り合い方程 式	演習課題		釣り合い方程 式
第10回 関数の増減, 凹凸 (最大値・最小値の算出, 極値 の判定への微分法の利用)		質点の運動	最小二乗法					共振点と その振幅				
第11回 関数の展開と近似値, 微分積分学の基本定理								振り子の大幅振動				
第12回 不定積分の方法① (代表的な不定積分の解法)	断面1次モー メント 断面2次モー メント			物体力が働く 棒の伸び 薄肉閉断面棒 のねじり 薄肉円筒・球 殻	スカラー場、ベ クトル場の積 分	フーリエ係数	薄肉断面のせん断応力					
第13回 不定積分の方法② (置換積分法, 部分積分法およ びその繰り返し計算)					スカラー場、ベ クトル場の積 分	フーリエ係数			仮想仕事の原 理	仮想仕事の原 理		仮想仕事の原 理

微分積分学 I (1年次 第1クォーター)

担当教員:源城 かほり

授業内容(項目)	構造力学 I 1年1・2Q:安武	基礎物理A 1年3・4Q:吉武	シミュレーション 工学 2年1・2Q:吉武	材料力学 2年1・2Q:松田	応用数学C 2年1・2Q:永井	応用数学A 2年3・4Q:吉武	鋼構造設計法 3年1Q:松田	構造振動学 3年1・2Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	RC構造 設計法 3年1・2Q:中原	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第14回 定積分 第15回 定積分の応用 面積・体積・曲線の長さ (極座標, 円筒座標系を含む)	曲率、たわみ 曲線	質点の運動 (極座標系)			ベクトルの微分と積分の空間曲線への応用として曲線の長さ、曲面への応用として曲面の面積				仮想仕事の原理 (ひずみエネルギー積分)			仮想仕事の原理 (ひずみエネルギー積分)

線形代数学 I (1年次 第1・2クォーター)

担当教員: 中原 浩之

授業内容(項目)	構造力学 I 1年1・2Q:安武	基礎物理A 1年3・4Q:吉武	シミュレーション 工学 2年1・2Q:吉武	材料力学 2年1・2Q:松田	応用数学C 2年1・2Q:永井	応用数学A 2年3・4Q:吉武	鋼構造設計法 3年1Q:松田	構造振動学 3年1・2Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	RC構造 設計法 3年1・2Q:中原	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第1章 ベクトルと行列1 (基礎編)												
1.1 ベクトルの基本事項				材力の基礎知識							合応力の釣合	
1.1.1 ベクトルとスカラー					スカラー場、ベクトル場							
1.1.2 2次元ベクトル		質点の運動										
1.1.3 3次元ベクトル		質点の運動			曲線、曲面の方程式、スカラー場・ベクトル場とその線積分・面積分、ガウスの定理、ストークスの定理							
1.1.4 3次元ベクトルの外積と3重積		角運動量			曲面の法線ベクトル、面積要素、スカラー場・ベクトル場とその線積分・面積分							
1.2 n次元ベクトル												
1.3 行列の基本演算												
1.3.1 行列の定義												
1.3.2 行列の演算 1-和とスカラー倍												
1.3.3 行列の演算 2-積								多自由度系				
1.4 さまざまな行列												
1.4.1 対角行列									剛性マトリックス	剛性マトリックス		剛性マトリックス
1.4.2 転置行列								多自由度系	剛性マトリックス	剛性マトリックス		剛性マトリックス
1.4.3 逆行列												
1.4.4 下三角行列, 上三角行列												

線形代数学 I (1年次 第1・2クォーター)
担当教員: 中原 浩之

授業内容(項目)	構造力学 I 1年1・2Q:安武	基礎物理A 1年3・4Q:吉武	シミュレーション 工学 2年1・2Q:吉武	材料力学 2年1・2Q:松田	応用数学C 2年1・2Q:永井	応用数学A 2年3・4Q:吉武	鋼構造設計法 3年1Q:松田	構造振動学 3年1・2Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	RC構造 設計法 3年1・2Q:中原	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第2章 連立1次方程式												
2.1 行基本変形と連立1次方程式	トラスの部材力											
2.2 解が存在しない場合, 一意でない場合												
2.2.1 未知数と方程式の個数が等しい場合												
2.2.2 未知数と方程式の個数が等しくない場合												
2.3 同次連立方程式												
2.3.1 同次連立方程式と非自明解								多自由度系				
2.3.2 非同次連立方程式再考												
2.4 行列のランク												
2.4.1 階段行列と行列のランク												
2.4.2 同次連立方程式と行列のランク												
2.4.3 非同次連立方程式と行列のランク												
2.5 掃き出し法による逆行列計算			掃き出し法 最小二乗法						全体剛性方程式	計算例題		全体剛性方程式
第3章 行列式												
3.1 3次までの行列式とその性質								多自由度系				
3.1.1 2次行列式の定義と性質												
3.1.2 3次行列式の定義												
3.1.3 3次行列式の性質												
3.2 4次以上の行列式							横座屈	連続体				
3.2.1 順列と互換												
3.2.2 n次行列式の定義												
3.2.3 n次行列式の性質												
3.3 余因子展開による行列式の計算												
3.4 行列の積の行列式												
3.5 余因子と逆行列												
3.6 連立方程式への応用とクラメルの公式	トラスの部材力		Newton法					多自由度系	全体剛性方程式	計算例題		全体剛性方程式

線形代数学 I (1年次 第1・2クォーター)

担当教員: 中原 浩之

授業内容(項目)	構造力学 I 1年1・2Q:安武	基礎物理A 1年3・4Q:吉武	シミュレーション 工学 2年1・2Q:吉武	材料力学 2年1・2Q:松田	応用数学C 2年1・2Q:永井	応用数学A 2年3・4Q:吉武	鋼構造設計法 3年1Q:松田	構造振動学 3年1・2Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	RC構造 設計法 3年1・2Q:中原	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第4章 ベクトルと行列2 (応用編)												
4.1 ベクトルの1次独立, 1次従属		質点の運動										
4.2 正規直交系とグラム・シュミットの 直交化法												
4.2.1 R^n の正規直交系												
4.2.2 グラム・シュミットの直交化法												
第5章 行列の固有値問題												
5.1 固有値と固有ベクトル									剛体変形モード の抽出	剛体変形モード の抽出	モールの応力 円	剛体変形モード の抽出
5.1.1 2次正方行列の固有値と固有 ベクトル												
5.1.2 3次正方行列の固有値と固有 ベクトル												
5.1.3 n 次正方行列の固有値と固有 ベクトル												
5.2 行列の対角化とその応用												
5.2.1 相似な行列												
5.2.2 行列の対角化												
5.2.3 正方行列の n 乗計算												
5.2.4 固有ベクトルの1次独立性												

微分積分学Ⅱ(1年次 第2クォーター)

担当教員:山口 浩平

授業内容(項目)	構造力学Ⅰ 1年1・2Q:安武	基礎物理A 1年3・4Q:吉武	材料力学 2年1・2Q:松田	土質力学 2年1・2Q:原田	応用数学C 2年1・2Q:永井	基礎構造 設計法 2年3Q:原田	応用数学A 2年3・4Q:吉武	鋼構造設計法 3年1Q:松田	構造振動学 3年1・2Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	RC構造 設計法 3年1・2Q:中原	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第4章 多変数関数の微分法 (微分積分学Ⅰからの続き)													
4.0 円柱座標 (教科書では5.5節にて説明)			薄肉円筒球殻	地盤内の応力 と変位	曲面の方程 式、曲面の面 積								
4.1 2変数関数とその極限													
4.2 偏微分と全微分			主応力		ベクトル関数 の偏微分係 数、曲面の接 平面、全微 分、スカラー場 の勾配、ベクト ル場の発散と 回転		偏微分方程式	平板の座屈	連続体の振動				
4.3 合成関数の微分法													
4.4 高次偏導関数とテイラー の定理					曲面の面積					平衡条件式	平衡条件式		
4.5 2変数関数の極値とラグ ランジュの未定乗数法						土圧、基礎の 支持力							変分変換
第5章 重積分													
5.1 2重積分	断面2次モー メント		面積積分				フーリエ積分			断面係数	断面係数	曲げ剛性	
5.2 累次積分													
5.3 2重積分の計算法													
5.4 2重積分の応用					曲面の面積、 スカラー場と ベクトル場の 面積分、スト ークスの定理			圧力を受ける 薄肉構造物		断面係数	断面係数		
5.5 3重積分		剛体の運動 慣性モーメント	体積積分		ガウスの定理								

微分積分学Ⅲ(1年次 第3・4クォーター)

担当教員: 吉武 裕

授業内容(項目)	構造力学 I 1年1・2Q:安武	構造力学 演習 I 1年1・2Q:佐々木	基礎物理A 1年3・4Q:吉武	材料力学 2年1・2Q:松田	土質力学 2年1・2Q:原田	基礎構造 設計法 2年3Q:原田	構造物安定論 2年3・4Q:山口	構造振動学 3年1・2Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	RC構造 設計法 3年1・2Q:中原	建築環境工学 3年1・2Q:源城	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第1章 1階常微分方程式													
1.1 直接積分形	たわみの計算	はりのたわみ	落体の運動	曲げによるたわみ せん断によるたわみ 不静定はり (重複積分法)							合応力		
1.2 変数分離形			速度比例抵抗のある運動		地下水の揚水							物質平衡・熱平衡	
1.3 $y' = f(\alpha x + \beta y + \gamma)$ の形													
1.4 同次形													
1.5 1階線形微分方程式													
定数変化法													
積分因子法													
1.6 ベルヌーイの方程式													
1.7 完全微分方程式													
1.8 1階高次微分方程式									梁の支配方程式	梁の支配方程式			
第2章 線形微分方程式													
2.0 線形代数からの準備													
線形従属													
線形独立													
線形結合									形状関数	形状関数			形状関数
クラメールの公式								2自由度系の強制振動	一般化座標	逆行列			
2.1 線形微分方程式の解				柱の座屈 横座屈									
2.2 同次方程式													
ロンスキー行列式													
特性方程式													
基本解			振り子の振動				座屈問題	自由振動					
2.3 非同次方程式							座屈問題	強制振動					
2.4 オイラーの方程式													

微分積分学Ⅲ(1年次 第3・4クォーター)

担当教員: 吉武 裕

授業内容(項目)	構造力学 I 1年1・2Q:安武	構造力学 演習 I 1年1・2Q:佐々木	基礎物理A 1年3・4Q:吉武	材料力学 2年1・2Q:松田	土質力学 2年1・2Q:原田	基礎構造 設計法 2年3Q:原田	構造物安定論 2年3・4Q:山口	構造振動学 3年1・2Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	RC構造 設計法 3年1・2Q:中原	建築環境工学 3年1・2Q:源城	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第3章 偏微分方程式													
3.1 2階の偏微分方程式				平板の座屈		圧密方程式 (拡散方程式)		連続体(弦、 棒)の振動					板曲げ支配 方程式
第4章 連立微分方程式													
4.1 同次方程式													
4.2 非同次方程式													

授業内容(項目)	基礎物理A 1年3・4Q:吉武	応用数学A 2年3・4Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	RC構造設計法 3年1・2Q:中原	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第1章 ベクトル代数 (3次元空間における線形代数学 I の復習)						
1.1 ベクトルの線形演算					合応力の釣合い	
1.2 ベクトルの成分表示	質点の運動					
1.3 ベクトルの内積						
1.4 ベクトルの外積	角運動量			面積素, 体積素	剛体の釣合	
1.5 内積と外積の応用 (力のする仕事、力のモーメント、角運動量、角速度ベクトル)	角運動量 力のモーメント					
第2章 ベクトルの微分と積分						
2.1 ベクトルの微分	力のモーメント					
2.2 ベクトルの積分						
2.3 空間曲線への応用						
2.4 力学への応用: 点の運動 (速度と加速度、運動方程式)	質点の運動 惑星の運動		力の釣り合い式			
2.5 曲面への応用 (曲面の方程式、曲面の面積)			境界条件			
第3章 スカラー場とベクトル場						
3.1 スカラー場と勾配			歪	歪		
3.2 ベクトル場の発散と回転						
3.3 勾配, 発散, 回転に関する諸公式						
第4章 線積分, 面積分と積分定理						
4.1 線積分			仮想仕事の原理	仮想仕事の原理		仮想仕事の原理
4.2 面積分			仮想仕事の原理	仮想仕事の原理		仮想仕事の原理
4.3 ガウスの定理とグリーンの定理			仮想仕事の原理	仮想仕事の原理	単位仮想荷重法	仮想仕事の原理
4.4 平面におけるグリーンの定理			仮想仕事の原理	仮想仕事の原理		仮想仕事の原理
4.5 ストークスの定理						
4.6 積分定理の応用			仮想仕事の原理	仮想仕事の原理		仮想仕事の原理

応用数学A(2年次 第3・4クォーター)

担当教員:吉武 裕

授業内容(項目)	基礎構造設計法 2年3Q:原田	構造振動学 3年1・2Q:吉武	計算力学 3年1・2Q:山口	計算力学演習 3年1・2Q:山口	平面及び曲面 構造論 3年3・4Q:永井
第1章 講義の目的					
第2章 フーリエ級数					
2.1 フーリエ級数展開とは					
2.2 三角関数系の直交性とフーリエ係数の 公式の導出	圧密方程式	一般周期外力	梁問題の解法	梁問題の演習	板曲げ問題の解法
2.3 偶関数と奇関数					
2.4 半区間展開					
2.5 不連続関数のフーリエ級数					
2.6 フーリエ級数の積分と微分					
第3章 複素フーリエ級数					
3.1 複素フーリエ級数の導出					
3.2 複素フーリエ級数と偶関数・奇関数との関係					
3.3 複素フーリエ級数の積分と微分					
3.4 指数関数系の直交性と複素フーリエ係数の 公式の導出					
3.5 パーシバルの等式					
第4章 フーリエ変換					
4.1 非周期関数					
4.2 フーリエ積分					
4.3 フーリエ変換		振動計測			
4.4 フーリエ正弦変換と余弦変換					
4.5 フーリエ変換の性質					
4.6 フーリエ変換におけるパーシバルの等式					
4.7 フーリエ変換とスペクトル		振動計測			
第5章 特殊関数					
5.1 デルタ関数					
5.2 デルタ関数のフーリエ変換					
第6章 偏微分方程式					
6.1 弦の運動方程式の導出		連続体の振動			
6.2 弦の自由振動の解		連続体の振動			
第7章					
7.1 フーリエ変換による線形常微分方程式の導出					
7.2 具体的外力の場合		強制振動			